

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 6 部門第 2 区分

【発行日】平成22年10月14日 (2010.10.14)

【公開番号】特開2009-58840(P2009-58840A)

【公開日】平成21年3月19日 (2009.3.19)

【年通号数】公開・登録公報2009-011

【出願番号】特願2007-227178(P2007-227178)

【国際特許分類】

G 0 2 F 1/137 (2006.01)

G 0 2 F 1/1333 (2006.01)

C 0 1 G 23/00 (2006.01)

【F I】

G 0 2 F 1/137 5 0 0

G 0 2 F 1/1333

C 0 1 G 23/00 B

【手続補正書】

【提出日】平成22年8月26日 (2010.8.26)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

平均 1 次粒子径が 1 0 0 n m 以下でかつ有機保護剤で保護されている多結晶チタン酸バリウム粒子が、液晶材料中に分散されていることを特徴とする液晶材料組成物。

【請求項 2】

前記多結晶チタン酸バリウム粒子の含有量が、前記液晶材料 1 0 0 質量部に対して 0 . 0 0 1 ~ 1 . 0 質量部であることを特徴とする請求項 1 に記載の液晶材料組成物。

【請求項 3】

有機保護剤で保護されたバリウム化合物とチタン化合物を攪拌混合して液相合成した後、焼成処理して結晶化することを特徴とする多結晶チタン酸バリウム粒子の製造方法。

【請求項 4】

前記有機保護剤と前記バリウム化合物のモル量の比（有機保護剤のモル量 / バリウム化合物のモル量 = R）が、R = 0 . 5 ~ 2 . 0 であることを特徴とする請求項 3 に記載の多結晶チタン酸バリウム粒子の製造方法。

【請求項 5】

前記有機保護剤が環状アミド構造を持つビニル系ポリマーであることを特徴とする請求項 3 または請求項 4 に記載の多結晶チタン酸バリウム粒子の製造方法。

【請求項 6】

偏光を利用する液晶表示モードにより画像表示を行う液晶電気光学装置であって、液晶層を有する液晶セルと、前記液晶セルの外側の少なくとも一方に配設される偏光板を備え、前記液晶セルの前記液晶層が、前記請求項 1 または請求項 2 に記載の液晶材料組成物からなることを特徴とする液晶電気光学装置。